

はじめに

この第2期計画は昭和53年度から約20年間に渡った「北海道教育資料収集整備計画（第1期）」を継承し、本道の教育資料・情報を効果的に活用し、教育の理論的・実践的研究を総合的に推進すると共に、本道の貴重な教育遺産を将来に活かすため、関係資料・情報を収集し、これを本学の教職員・学生並びに教育関係者をはじめ広く社会に提供することを目的として計画しました。本計画では、収集対象を（1）本道の小・中学校の記念誌・沿革誌（史）類、（2）本道の閉校した小・中学校の記念誌・沿革誌（史）類、（3）本道の学校で使用された現行検定制度以前の教科書、（4）本道の学校で使用された暫定教科書、（5）本道の小・中学校で使用された副読本等、（6）本道の教育団体の刊行資料、（7）本道の生涯教育（社会教育を含む）に関する資料類の7分野に整理し、本学附属図書館構成館（札幌館、函館館、旭川館、釧路館、岩見沢館）が、支庁別の分担収集を行いました。

第2期北海道教育資料収集計画（平成11年度から平成16年度）においては沿革資料、副読本等を中心に図書類約1千3百点、逐次刊行物約260種類を収集することが出来、目録作成のうえOPACで公開しています。

さらに、第1期分のカード目録、冊子体目録の遡及入力を学長裁量経費で実施約1万8千点を入力し、これもまたOPACで公開しています。

過疎化、少子化が進む北海道では、平成12年度以降、小中学校で140校を越える統廃合が実施され、統廃合の学校には創設100年を越える学校も有りその教育資料を保存することは、北海道教育の基幹を担う本学図書館の使命と考えています。

本計画に際し道内の教育委員会、小中学校3300機関に送付依頼いたしました。協力頂いた関係機関に御礼を申し上げますと共に、今後、本学図書館における北海道教育資料収集活動がさらに継承されることを祈念し報告といたします。

平成17年4月27日

教育資料収集小委員会委員長
新 田 和 幸